

トルコの政策金利引き下げについて

2012年12月20日

12月18日、トルコ中央銀行は定例の金融政策会合において、政策金利(1週間レポレート)を0.25%引き下げ、5.5%とすることを発表しました。政策金利の引き下げは2011年8月以来、1年4カ月ぶりとなります。

《市場の予想通り、政策金利引き下げ発表》

今回の政策金利の0.25%引き下げは、市場予想の範囲内でしたが、同じく引き下げが予想されていた翌日物借入金利が据え置かれたこともあり、トルコリラは利下げ発表後も強含みとなっています。

今回の政策金利引き下げの目的は、①減速しつつある内需の拡大、②輸出増加の妨げとなる自国通貨高の抑制にあるとみられ、実施の背景にはインフレ圧力の鈍化や経常収支の改善があったと考えられます。

トルコ中央銀行は、インフレ抑制よりも景気の拡大をより重視し、政策金利の引き下げを実施しても物価に対する影響が限定されると判断したと考えられます。

《今後の見通し》

●政策金利

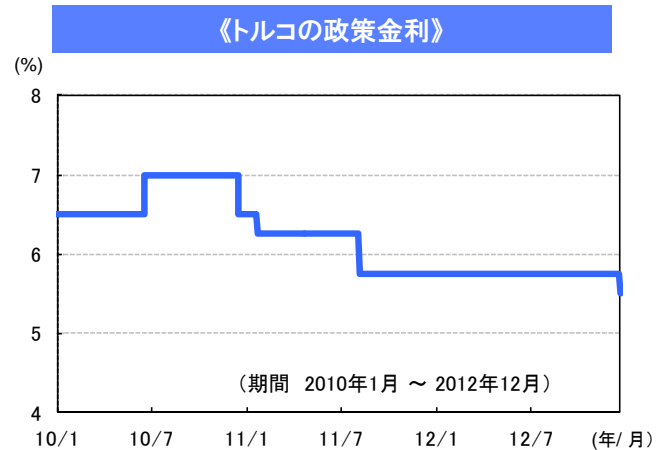
トルコ中央銀行は、国内景気が緩やかな減速傾向にあり、インフレ圧力も緩和していることから、金融政策についても景気重視の姿勢を続けるとしています。このため、景気の減速が継続すれば、必要に応じて追加の利下げ(金融緩和)を実施すると予想され、市場金利については緩やかに低下することが予想されます。

●景気

2012年7～9月期の実質GDPは、対前年比で+1.6%にとどまり、個人消費にも減速傾向がみられます。しかし、今回の利下げの実施が、今後の内需および輸出の拡大につながっていくことも期待されます。

●為替見通し

トルコでは、国債の格付けの引き上げや株高もあり、先進国を中心とした金融緩和を背景に、今後とも海外からの証券投資資金の流入が続くと考えられます。また政府の財政緊縮路線が継続されていることも市場では評価されており、今回の利下げ後もトルコリラは底堅い動きを続けるとみています。



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。